

現象学のアンチノミーと超越の問題 ——Th・W・アドルノの最初期思想を中心としたフッサール論の研究——

青柳 雅文

この研究は、超越としての対象について、それをどのように知りうるのか、これを基本的な意図としている。そして、Th・W・アドルノのフッサール現象学にかんする諸作品を題材にして、現象学のアンチノミーを問題提起として掲げ、超越についての認識を問う。そしてアドルノのフッサール論をつうじて、認識のあらたな可能性を探ることになる。

またこの研究では、これ以外にいくつかの課題をとりあげることになる。

まず、アドルノの最初期の思想を紹介し、アドルノの思想全体において位置づけるとともに、その意義を明らかにする。つぎに、アドルノの思想におけるフッサール現象学の役割を明らかにする。そして、アドルノの思想における指導教官コルネリウスの役割を明らかにする。

以上の意図と課題について議論するために、この研究は、三部構成で考察を進めることになる。

第一部は、最初期のフッサール論をとりあげ、物の複合的認識をめざすアドルノの超越論的立場、そして〈非同一的なもの〉の思想へと展開する端緒について明らかにする。これとあわせて、アドルノの指導教官であるコルネリウスについても、その思想やアドルノとの関係について触れておきたい。

第二部は、一九三〇年代の講演および亡命期に執筆されたフッサール論を中心にして、アドルノの思想の展開について考察する。ここでは最初期の問題関心を保持しつつ、意味認識、観念論批判をつうじて〈非同一的なもの〉の思想が具体的に論じられていることを示す。

第三部は、『認識論のメタ批判』を題材として、アドルノの思想の展開、とくに後期思想について、弁証法との関連で考察をおこなう。現象学のかかえるアンチノミーを、アドルノが弁証法に即して読み解き、認識の理念と視座を示すことになる。